

# はくぶつかんネット

## 第69号

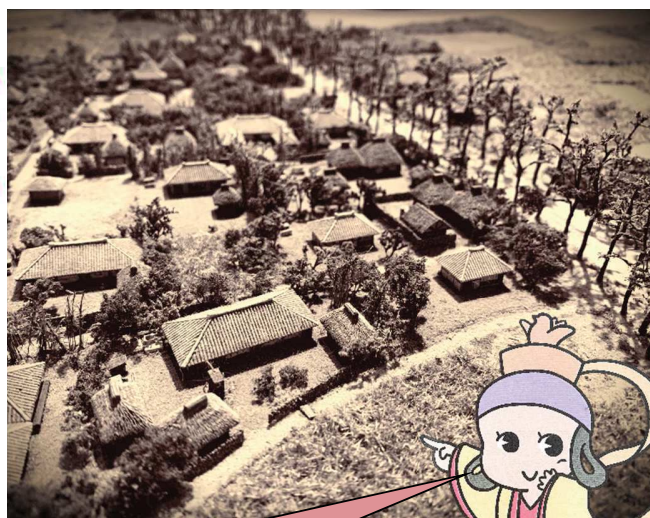
令和2年9月～令和3年3月 発行：宜野湾市立博物館



## 地域との共同企画展 ぎのわんの“字”展 布織り美らさや **新城**

前号でもお伝えしたように、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大によって、施設の利用や参観方法の見直しはもちろん、イベントの延期や中止、あるいは規模の縮小など、様々な制約を余儀なくされました。このような状況の中、地域との共同企画展「ぎのわんの“字”展」は、2回目の発令となった沖縄県独自の緊急事態宣言終了後、予定通り9月9日（水）から開催することができました。

今年度で13回目の開催となった今回の“字”展は、「布織り美らさや 新城」と題して、新城区自治会と字新城郷友会との共催により、新城の歴史や文化を紹介しました。当初、10月25日までの開催を予定していましたが、最終的に会期を11月29日（日）まで延長させて頂きました。そして、コロナ禍での開催ではありましたが、1,526名もの方々にご参観いただくことができました。貴重な資料をご提供いただいた新城の皆様をはじめ、新城区自治会や字新城郷友会、佐喜真美術館、沖縄県立埋蔵文化財センターの方々には大変お世話になりました。ご協力いただき、ありがとうございました！



戦前の新城集落のジオラマは、常設展示室で展示しているよ。



多数のご来場、まことにありがとうございました！



ご先祖が住んでいたお家はここかな？



佐喜真興英が100年も前に着ていた服が残っていたんだ…。



## Web パネル展を開催しました！

今回の“字”展は、緊急事態宣言明けに開催することができましたが、コロナ禍での開催ということもあり、普段から博物館に足を運んで頂いている方でも、来館を見合わせた方は多くいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで、このような感染症を心配されている方のために、9月9日～11月30日までの間、ご自宅でも企画展の内容を見ることができるよう、当館のホームページで「Web パネル展」を開催しました。Web 上での公開のため、解説パネルや写真中心で、中には公開できない資料もありましたが、累計 318 名の方に閲覧して頂きました。

今後も、仕事の都合などで博物館の企画展を参観するお時間がない方や、身体の不自由な方にも、いつでもどこでも企画展の内容をご覧いただけるように、このような試みを行っていきたいと思います。この「Web パネル展」を足掛かりとして、実際の資料を見学に、博物館へ遊びに来てはいかがでしょうか？

## とくこぼち さい 新城区公民館の取毀祭に参加しました！

“字”展でも大変お世話になった新城区自治会は、新城の行政区新設に伴って 1964（昭和 39）年に誕生しました。そして、1968（昭和 43）年にその拠点となる新城区公民館が造られましたが、建設から半世紀が過ぎ、老朽化が著しいことから新たに建て替えることになりました。そして、2021（令和 3）年 1 月 8 日、公民館を守ってくれている神様に取り壊しの報告をして、工事の安全を祈願するお祭り「取毀祭」が執り行われました。

この祭典は、普天満宮の宮司である新垣義夫氏が行い、公民館関係者や工事関係者など多くの方が列席し、厳かな雰囲気の中、無事に終了しました。

新しい公民館は、2022（令和 4）年 3 月完成の予定です！



1968（昭和 43）年



2020（令和 2）年



どんな公民館ができるか、楽しみぢやな！





## 第21期 わらば～体験じゅく

郷土の自然や文化を全9回の体験を通して学習します。今年度は、コロナウイルスの影響で例年より1ヵ月遅れてスタートしました。この状況では、今年は参加者少ないだろうなあ…と思いきや、参加応募者は定員を超えるほど殺到！その中から、抽選で30名の「じゅく生」が選ばれました。他校・異学年の仲間たちと協力して体験に挑むことで、新しいお友達もたくさんできました☆

### 第1回 開校式／博物館見学と道具体験 7/11（講師：博物館職員）



開校式を行った後、博物館見学と昔の道具体験を行いました。

### 第2回 漆喰シーサーをつくろう！ 9/12（講師：わにや耕房 比嘉 和行さん）



漆喰と赤瓦を使って、自分だけのオリジナルシーサーをつくりました。

### 第3回 沖縄の石と化石の不思議に迫ろう！ 9/26（講師：沖縄県立博物館・美術館 宇佐美 賢さん）



琉球石灰岩を観察して、岩石プレパラートをつくり、石の中にある化石を探しました。みんな興味津々でした☆

### 第4回 喜友名のシーサーめぐり 10/17（講師：博物館職員）



喜友名地区で、文化財の「喜友名泉」と「喜友名の石獅子群」を見てまわりました。たくさん歩きました～(\*´3`)ﾉ

### 第5回 田イモの植付けに挑戦！ 11/28（講師：田イモ農家 宮城 徳彦さん）



大山の畑で、宜野湾市の特産品「田イモ」の植付けに挑戦しました。

### 第6回 田イモの収穫に挑戦！ 1/16（講師：田イモ農家 石川 達義さん）



田イモの収穫も体験しました。大きな田イモを見て、とても大事に育てられたことを学びました。

第7回「ウシのお世話をしてみよう！」は、コロナ感染拡大の影響により、中止となりました。



### 第8回 漆の技法体験 2/20（講師：漆実験工房のみなさん）



### 第9回 葉脈でかざろう！ 3/13 記念カードづくり／開校式（講師：博物館職員）



身近な植物の葉脈標本をかざった記念カードをつかった後、閉校式を行いました。全員に「修了証書」、皆出席者13名に「わらば～名人認定証」が授与されました。



## 令和2年度 博物館市民講座を振り返って

令和2年度の市民講座は、室内講座を12回、野外講座を6回、合計18回の講座を予定しておりましたが、コロナウイルスの影響などから5回が中止となり、合計13回の開催となりました。コロナに対する不安があるにもかかわらず、今年度は累計で207名の方に受講していただきました。誠にありがとうございました！

今年度中止になった「語やびら、イガルーシマ～新城編」や「琉球大学合同企画展関連①・②」などは、令和3年度に開催できるよう調整している他、様々な講座を予定しておりますので、どうぞご期待ください！

### 第1回：6/21 「ユタの歴史的成立と役割

#### —歴史学の成果を通して—

高江洲 敦子  
（沖縄国際大学 非常勤講師）



現在の生活の中でも独特な認識を持たれるユタについて、成立から現在に至るまでの認識を、文字史料を用いた歴史学の視点から、講演していただきました。

### 第2回：6/28 「大山の自然観察」

千木良 芳範  
（宜野湾市立博物館 前館長）



大山の田イモ畑を実際に散策することで、宜野湾の自然の多様性とこれからの活用について学びました。先生の豊富な説明もあり、子どもたちも大山の植物や昆虫を熱心に観察していました。

### 第3回：7/12 「あの世からみる近世琉球社会

#### ～お墓を調べてわかる事～

宮城 弘樹（沖縄国際大学 准教授）



沖縄の特徴でもある大きなお墓。その中の構造や当時の生活について分かったことを、考古学の視点からイラストやグラフを使い、資料と解説によって講演していただきました。

### 第4回：7/26 「ぶらっと博物館めぐり ～恩納村博物館～」

後藤 法宣・大城 弘也  
（恩納村博物館 学芸員）



博物館の意義や役割、恩納村の歴史や特徴を、常設展示室や文化情報センター・仲泊遺跡などを見学しました。普段見る事ができないバックヤードの見学は、受講者から好評でした。

### 第6回：9/20 「琉中交流史」

山田 浩世（沖縄県教育庁文化財課 史料編集班 専門員）



宜野湾市から出土した陶磁器や、外交文書である「歴代宝案」から、交易で用いられた硫黄が宜野湾市我如古でも精製されていたことなどを例に、中国との関わりについて講演していただきました。

### 第8回：9/27 「郷土の偉人！佐喜眞興英」

仲村 元惟  
（宜野湾市史編集委員会 委員）



裁判官であり、民俗学に大きく貢献した宜野湾市の偉人、佐喜眞興英の生涯と功績について、実際に佐喜眞興英の妻であった永原松代氏から聞いた話などを交えて、講演を行っていただきました。

### 第9回：10/18 「沖縄の魔除けとまじない」

山里 純一（名城大学 教授）



中国や日本から沖縄へ伝わったまじないについて、佐喜眞興英が収集した資料などを交えて講演していただきました。佐喜眞興英の著書『シマの話』内の漢字一文字の誤りなど、佐喜眞興英の研究にも切り込んだ内容でした。

### 第10回：10/25 「グスクツアーPart2」

上原 静（沖縄国際大学 教授）



本島南部のグスクをめぐり、グスクとは何かという素朴な疑問から、正式な南山のグスクはどれかという難しい内容まで、実際にグスクや御嶽を見学しながら、成立背景などの解説をしてくださいました。

### 第11回：11/1 「軽便鉄道の旅 Part2～糸満線～」

波平 エリ子  
（沖縄女子短期大学 准教授）



かつて存在した沖縄県営軽便鉄道の糸満線跡を当時の路線に沿ってめぐりました。「幸之一カーブ」と呼ばれるカーブの由来や、2015年に見つかった稲嶺駅の地下水路跡などを見学しました。

### 第14回：11/29 「中部戦線をめぐる」

平敷 兼哉  
（宜野湾市立博物館 館長）ほか



宜野湾市・中城村・西原町・浦添市に残る中部の戦跡を、平敷館長をはじめ、中城村教育委員会、西原町教育委員会、うらおそい歴史ガイド友の会の協力を受けて横断的にまわりました。



第16回：12/13「村獅子めぐり」

伊藤 圭（宜野湾市立博物館 係長）



村獅子は集落を災いから守るために置かれていましたが、ひとつひとつに特徴を持っています。本講座では、宜野湾市喜友名の石獅子と那覇市、南城市、八重瀬町、糸満市の石獅子を比較して、それぞれの歴史や特徴を見ることができました。

第17回：2/28「動物の骨から歴史を探る」

菅原 広史  
（浦添市教育委員会文化財課 主任）



宜野湾市から出土する動物骨などを例に、動物考古学の視点から講演していただきました。講座内では、獣骨と魚骨の出土割合から、縄文時代に浦添から北谷の海岸近くで生活した集団の特異性などを説明していただきました。

第18回：3/14「考古学と自然科学分析」

橋本 真紀夫  
（パリオ・サーヴェイ株式会社 顧問）



自然科学分析は、遺跡の土壌に含まれる花粉や土器の胎土などから、1ミクロン単位で分析します。その結果から、考古学の調査成果を補完することで、遺跡の特徴が明らかになることを、分析方法と結果を交えて講演していただきました。

※第5、7、12、13、15回は中止になりました。

コロナ対策として、規模縮小・休憩時間の割愛など、講師をはじめ受講者の方々にご不便をおかけしました。しかし、皆様のご協力によって、無事に講座を終える事ができました。事前に準備をし、すばらしい講座を行ってくださった講師の方々に、感謝申し上げます。



## 社会科見学・出前講座の様子

### 社会科見学

市内外の小学校から社会科見学にお越しいただき、誠にありがとうございました。今年度は、新型コロナウイルスや空調機器の入れ替え工事による臨時休館の影響を受けて例年よりも少ない参加数ではありましたが、7校 1,402 人の児童が訪れ、昔と今の移り変わりについて学びました。



学校の社会科見学の際には、展示室の解説に加えて博物館職員の指導のもと、実際に昔の道具を使用した体験学習も行っています。

### 出前講座

宜野湾市内の学校を対象に、博物館への移動手段が確保できない場合に博物館職員が学校へ出向いて「昔の道具と暮らし」・「宜野湾市の歴史」・「まちの人たちが受け継ぐ行事」などの項目で出前講座（体験）を行っており、今年度は7校（1,525人）で行いました。



学校の社会科見学や出前講座は、事前に打ち合わせが必要となりますので、約1カ月前までにはお問い合わせくださいますよう、よろしくお願いします。



# 市史 だより がちまやあ Gači-majaa

## 歴史公文書から見た宜野湾 2

令和元年度より、宜野湾市の歴史公文書を博物館 HP にて紹介されているのは、ご存知でしょうか。今回、博物館所蔵の歴史公文書より戦後の宜野湾市の歴史を紐解いていきます。今回も前号に引き続き、普天間飛行場を取り上げます。

沖縄戦の最中、本土爆撃機の拠点として建設された普天間飛行場は、1950 年前後から慌ただしく整備されます。再整備のきっかけは 1949（昭和 24）年の中華人民共和国の成立と 1950（昭和 25）年の朝鮮戦争勃発にあります。1952（昭和 27）年には滑走路の整備、拡張が行われました。一般住民の通行も禁止となり、農作物の撤去なども通告されていきます。また、1954（昭和 29）年には立入禁止の文書の中に「今後軍が使用する」と改めて軍が使用する事を記載した通知が出されています。

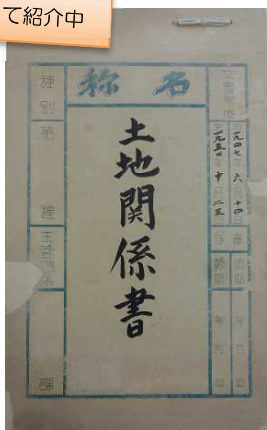


「農作物を撤去するよう求めた文書」と「今後軍が使用する」ことが記載された歴史公文書を見ていきましょう。

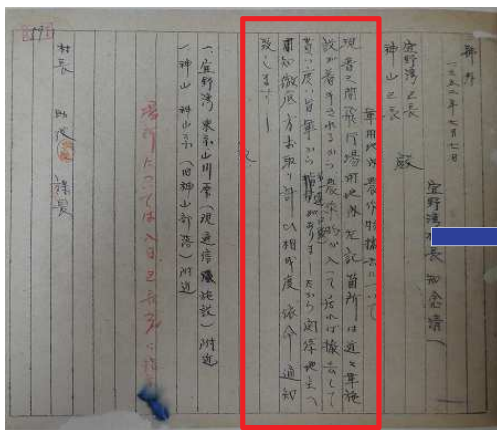
普天間飛行場に関する記述が歴史公文書に出てくるのは、1946 年 4 月 1 日の村政復帰以降じゃ



HP にて紹介中



『土地関係書』  
自 1947 年至 1952 年



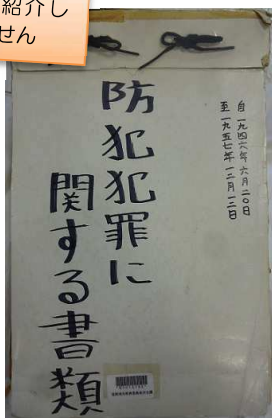
「軍用地内農作物撤去について」  
1952 年 7 月 7 日

歴史公文書を  
読んでみよう

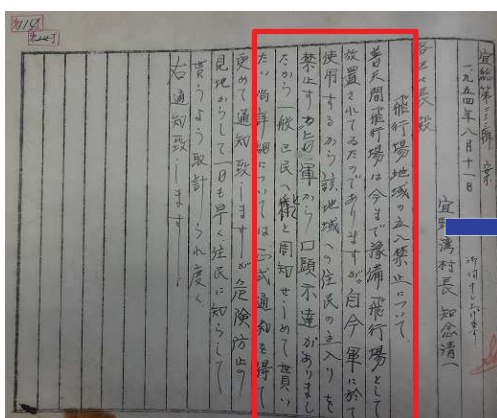
軍用地内農作物撤去について  
現普天間飛行場用地内左記箇所は近々軍施設が着手されるから農作物が入って居れば撤去して貰い度旨軍から示達（白頭）がありましてから関係地主へ周知徹底方お取り計ひ相成度依命通知致します。



HP に紹介していません



『防犯犯罪に関する書類』  
1946 年 6 月 20 日～  
1957 年 12 月 12 日



「飛行場地域の立入禁止について」  
1954 年 8 月 11 日

歴史公文書を  
読んでみよう

飛行場地域の立入禁止について  
普天間飛行場は今豫備飛行場として放置されてゐたのであります。が、自今軍に於て使用するから該地域への住民の立入りを禁止する旨軍から口頭示達がありましたから一般区民へと周知せしめて貰いたい（以下略）



上記のように軍用地に土地が接収されていくのですが、土地を接収され、なんの補償もないまま放置されていた実状と、米軍の基地強化計画に基づく軍用地新規接収及び再接収が行われ、土地の解放陳情が高まり 1950 年代「土地闘争」と呼ばれる住民運動が盛り上がっていきます。

新規接収軍用地に、伊佐浜（キャンプ瑞慶覧）、大山（普天間飛行場大山側ゲート付近）、真志喜（陸軍病院）があります。次ページでは、その中でも特に土地闘争が激しく盛り上がった伊佐浜（キャンプ瑞慶覧）についてみていきましょう。





## 『市史』編集現場から

## 『伊佐浜の土地闘争（ビジュアル版）』

近日発刊！

近日発刊予定で編集作業も佳境に入っています『伊佐浜の土地闘争（ビジュアル版）』に関連して、資料と写真で読み解く伊佐浜土地闘争について紹介していきます。

伊佐浜問題の始まりである1954（昭和29）年7月の「<sup>すいとう</sup>水稲植付禁止」から、1955（昭和30）年3月11日の第1次強制接収までの経過についてまとめられた「伊佐浜問題の経過」（沖縄県公文書館所蔵、外交史料館所蔵）、そしてそれ以降7月19日の強制接収までの伊佐浜に関する動きについては「伊佐浜問題の経過（その2）」（外交史料館所蔵）という資料から、当時の様子をうかがい知ることができます。

接収通告日の1955年7月18日は、朝暗いうちに接収が始まることを警戒し、「伊佐浜では、武装兵の出動を見張るために<sup>ようしやうしやう</sup>要所々々に見張りが立たされた。……今来るか、今来るかと全神経を集中して闇の中から物音を探り出そうとした。」「伊佐浜の農地の向う、既に<sup>れんべいじやう</sup>練兵場として敷き均されたところでは、<sup>なら</sup>青カブトの完全武装兵が<sup>ギラ</sup>ギラと照り付ける陽の下で待機していた。……人々はこの部隊の動きに神経を集中して見つめていた。」と18日の緊迫感が記されています。下の写真の右上に見える白くなった地域に武装兵が待機していたという事がわかります。

翌19日の強制接収当日の様子についても、「ブルドーザーを阻止しようとして押し掛けた部落民は武装兵に押し返されてブルドーザーは水田に乗り入れて水稲を根こそぎすくい始めた。みるみる中に水田が全く元の形を止めぬまでに潰されて行く。水田の<sup>せき</sup>堰は切り落とされて、豊かな水がドット流れていった。部落民は手を出すことも出来ない有様だった。」と米軍の前に無力な人びとと、下の写真の真ん中に広がる「北谷ターブクワ」と呼ばれた、美しい田園風景が壊されていく様子がこのように説明されています。

資料と写真をリンクして見てみると、同じ写真が物語を帯びて、少し違う景色に見えてきませんか？

写真や地図、公文書、当時の新聞記事などを満載し、体験者の証言もおさめたビジュアル版の『伊佐浜の土地闘争』は、「中学生からでも分かる！」をモットーに、「伊佐浜の土地闘争」のわかりやすい入門編として2021年3月末に発刊します（価格未定、販売開始は4月中旬頃予定）。

## 【参考資料】

- ・「伊佐浜問題の経過」：沖縄県公文書館所蔵「平良幸市文書」「軍用地問題に関する資料」、「（その2）」の所蔵参照
- ・「伊佐浜問題の経過（その2）」：『米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係軍用地問題（プライス報告書を含む）資料関係 第二巻』外務省北米局北米第一課464 外交史料館所蔵



強制接収直前の伊佐浜（1955年頃）美しい田んぼの中に点在する茂みが、強制接収された伊佐浜クシヤードゥイと呼ばれる集落

## 歴史公文書のHP 紹介のお知らせ

博物館では戦後初期から本土復帰、現在までの歴史的・文化的価値が認められる文書を概ね収集しています。歴史公文書を市民の皆様に活用して頂くため、公開・活用に向けて準備を進めてきましたが令和元年度より、宜野湾市立博物館ホームページで目次の紹介が始まりました。みなさまのご利用お待ちしております。

- |  |  |  |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般行政関係書</li> <li>・庶務統計関係書</li> <li>・区長会（自治会長会）</li> <li>・教育関係資料</li> <li>・土地関係書</li> <li>・宜野湾村区長会記録</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・庶務統計関係書</li> <li>・告示綴</li> <li>・建設関係書</li> <li>・陳情書</li> <li>・教育文化関係書</li> <li>・軍関係書綴</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・雑書</li> <li>・労政関係書</li> <li>・軍用地関係 主要農作物生産費調査要綱</li> <li>・軍用地関係 建設</li> <li>・軍用地関係 軍用地に関する要望事項</li> <li>・統計関係書綴</li> </ul> |
|--|--|--|



歴史公文書  
QRコード

歴史公文書は博物館で閲覧（パソコンで）することができるよ！  
詳しくは博物館 HP を見てね！（※事前申し込みが必要です。）



## 博物館友の会

「宜野湾市立博物館友の会」は、博物館が行う活動の支援を通して宜野湾市の歴史や文化を学びながら、会員相互の親睦を深めることを目的とした会です。また、会員向けの企画展の展示解説会やサークル活動、博物館事業へのサポートも行っています。

歴史や文化、自然などに興味のある方、市内市外、年齢、性別問いません！多くの方のご入会をお待ちしています♪

**会費** 普通会員（一般）：年額 1,000 円 \* 準会員（大学生、小中高生）：年額 500 円 \*  
家族会員（普通会員 2 人目から）：500 円

**申し込み先** 宜野湾市立博物館まで

もっと内容を知りたい方は、当館ホームページを  
ご覧いただく又は直接ご連絡ください

友の会のみなさん♪



博物館事業（わらば〜体験じゅく）サポートの様子

## いよいよ再開します！

今年度は、新型コロナウイルス感染予防のための臨時休館や行事の中止・日程等の変更に加え、空調機器の入れ替え工事による臨時休館など、十分な活動ができませんでした。。ですが、**3月24日（水）**より再オープンいたしますので、新型コロナの感染状況にもよりますが、お近くにお越しの際はぜひ足をお運びください！！

※博物館ご見学の際には ①マスクの着用 ②手指の消毒 ③体調管理 のご協力をお願いいたします★

令和3年度も宜野湾市立博物館をよろしくお願いいたします。



心よりお待ちしております♪

## 宜野湾市立博物館

- 入館料：無料
- 開館時間：9～17 時（入館は 16 時 30 分まで）
- 休館日：毎週火曜日、祝日（慰霊の日、文化の日は除く）  
年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）  
※その他、臨時休館になる場合もございます。

**お問い合わせ** 〒901-2224 宜野湾市真志喜 1-25-1  
TEL：(098) 870-9317 FAX：(098) 870-9316

